

これまでの日々をふり返って

岡野竜也

岩手県陸前高田市 広田わかめっこクラブ 指導員

私が大阪から岩手にやってきて二年半、陸前高田市の学童保育「広田わかめっこクラブ」の指導員になって二年が経ちました。

* * *

二〇一一年三月の東日本大震災後、大阪から毛布や薬などの物資を送っていましたが、被害の大きさや、なかなか進まない復旧作業などを何度も報道で知るたびに「被災した地域に行つて支援したい」と思うようになりました。そこで、知りあいを通じて支援団体を紹介してもらい、それまで勤めていた会社を退職して、二〇一一年六月一五日、岩手県大船渡市に赴きました。そして、翌日からボランティアセンターへ行き、復旧作業を手伝いました。

実際に見る現地は、想像以上に

大変な状況でした。大型船が道路に打ちあげられていたり、水道や電気が復旧できていない地域もたくさんありました。ボランティア活動を続けるうちに、地元の方やボランティアの方と知りあい、ボランティアセンターが行う復旧作業以外の支援活動にも誘われるようになりました。被災された方が避難所から仮設住宅に移られると、炊き出しや各地から送られてきた米や野菜、衣類の配布を手伝いました。また、和歌山県からボランティアに来ていた大工さんと一緒に、前職での経験をいかして、仮設住宅に収納棚やウッドデッキを取りつける作業なども行いました。

* * *

日々、さまざまな活動が続けて

いるうちに、当初は二週間の予定だった滞在期間がどんどん延びて、さまざまな方の助けもあり、とうとう半年が過ぎ、一二月になっていました。

この頃に、広田わかめっこクラブの保護者の方から、「指導員になつてくれないか」と相談を受けました。それまで、学童保育指導員はまったく経験したことがありませんでしたが、当時、子ども的人数が七人と少なく、初対面のときの子どもたちの反応から、「なんとか大丈夫かな」と思い、引き受けることに決めました。

それから三か月が経ち、二〇一二年四月になり、一年生が五人、入所してきました。人数が増えたこともそうですが、子ども一人ひとりと向きあうなかで、それぞれに

いろいろな問題を抱えていることに気づき、子どもたちとの関わりに悩むことも多くなっていききました。そんなとき、全国学童保育連絡協議会や岩手県、愛知県の学童保育連絡協議会の支援で、保育の補助に来ていただくことができたのは、子どもたちのみならず、経験不足の私にとつても、大変ありがたいものでした。

そして七月になると、避難先の学校へ転校していた子どもたちが帰ってきたり、震災の影響で学童保育に通えなくなっていた子どもたちも通所できるようになり、夏休み前には、児童数が二〇人ほどに増え、指導員も二人になりました。

この年には、NGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンからバスの

支援をいただき、夏には屋内プール施設、秋には動物園と親子遠足に出かけることもできました。この遠足で、保護者の方々も気分転換ができたのではないかと思います。

* * *

現在にいたるまでに、さまざまな団体、企業、個人の方々に、遊具や文房具、お菓子などたくさんの支援をいただきました。本当にありがとうございます。

震災から三年が経ちます。しかし復興はなかなか思うように進んでいません。これからも被災した地域のことを忘れずに、子どもたちのことを想い、息の長い支援をお願いします。私も、子どもたちが安心して成長し、楽しい日々をおくれるようがんばります。